

■ 植樹活動

毎年5月に「市民植樹祭」が開催され、企業の地域貢献から苗木提供やボランティアとしての参加、そして多くの市民が参加し、北見市の環境保全活動を行っています。

平成25年3月31日に開通した「北見道路」の両側には、北見さくら並木をつくろう会が独自に、桜を植樹し北見道路を桜並木で来北者をお迎えするために植樹活動も行われています。

■ 木の利用

木材は、植樹に使われる育成木や建築資材、家具・建具材の他、クラフトや包装製材など「ぬくもりのある」材料として多義に使われています。

北海道の森林に多く植えられているエゾマツは、松ヤニが多いこと、曲がりができるなど建築資材には適さないといわれていましたが、近年の技術で十分に乾燥させることにより資材に活用されはじめ、公共施設にも多く使われるようになってきました。

近年では、ぬくもりと高付加価値を与える容器として経木(薄皮)を利用した生キャラメルの器や、アイスクャンドル風の経木キャンドル、経木かるたや葉書にも使われています。

また、割り箸はエゾマツのまっすぐな線を利用して作られ、付加価値を高めるために箸の持手の片側をそぎ落とし、先端は少し丸く加工した「天削(てんそげ)」が有名です。

ぬくもりを伝える「木」の様々な製品は、毎年5月中旬に開催されるオホーツク木のフェスティバルは「木育(もくいく)」をテーマに木製品の販売、木工クラフト体験などにあわせて全国のバイヤーが集り注目するイベントです。

● オホーツク圏の中核都市としての産業

北見市は、交通アクセスの利便性や気候の良さを売り物に、昭和49年～50年からオホーツク圏の中核都市として、市内にある住工混在を解消し公害の防止と都市環境を整備してできたのが北見市豊地の「工業団地」で現在の面積は492,872㎡があります。

工業団地には、精密機器や電子機器を生産する京セラ北見工場をはじめ、市内の工業系企業があり、平成25年3月に開通した北見道路の西インターチェンジは、工業団地と卸売団地を繋いでいます。

また、かつて東洋一の水銀生産量を誇ったイトムカ水銀鉱山は、使用済み乾電池、蛍光管のリサイクル施設として、環境省からクリーンジャパン・センターとして表彰されています。

商業地区は、北見市一条商店街、二条商店街、銀座通商店街、駅前商店街など地域に多々あり、大型ショッピングモールは商店街を囲むように進出されています。

ホテル・旅館は、北見地区はビジネスホテルが多くまた、飲食業が盛んで、留辺蘂地区は温泉旅館型が多く、端野・常呂地区はリゾート型ホテルが観光客を迎えています。